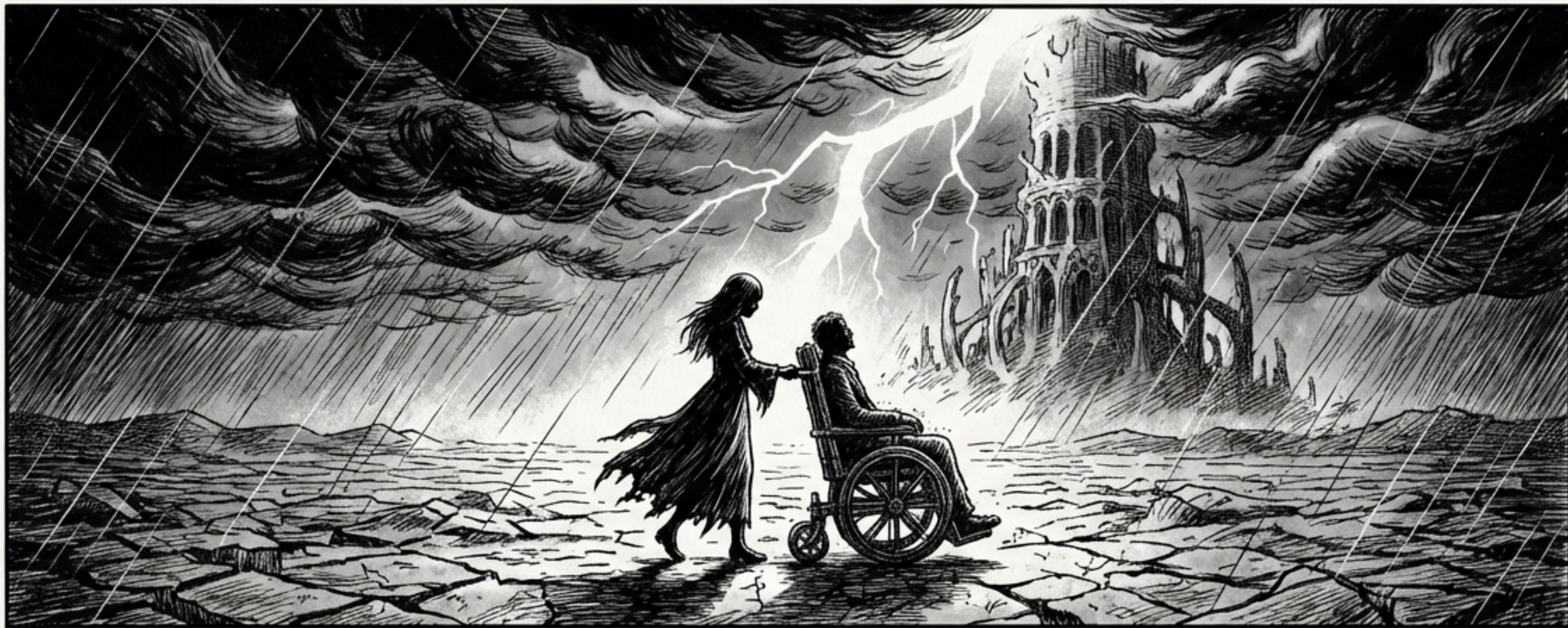


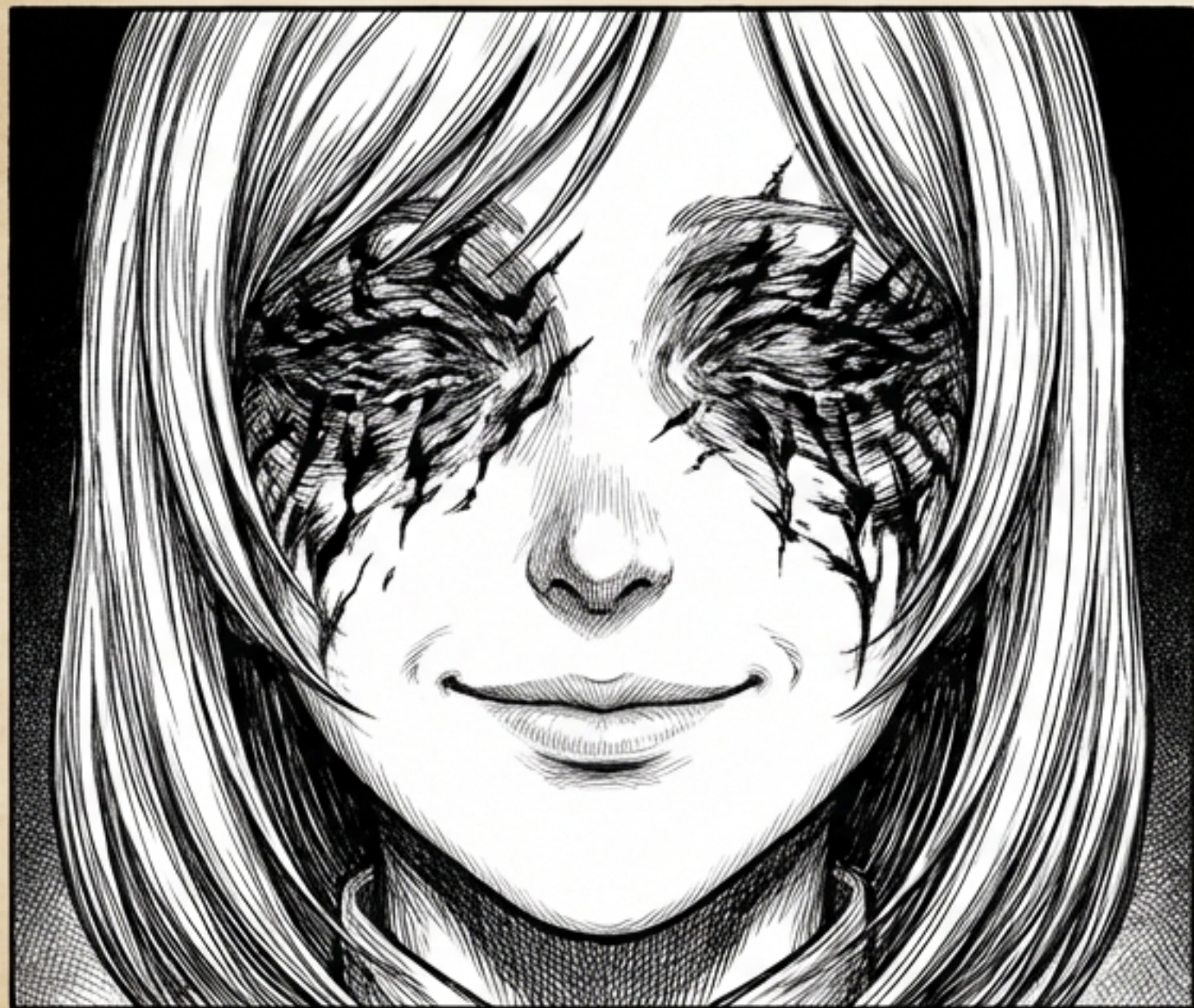
24使徒の唄

～ハルマゲドンまたはメギドの丘の成果～



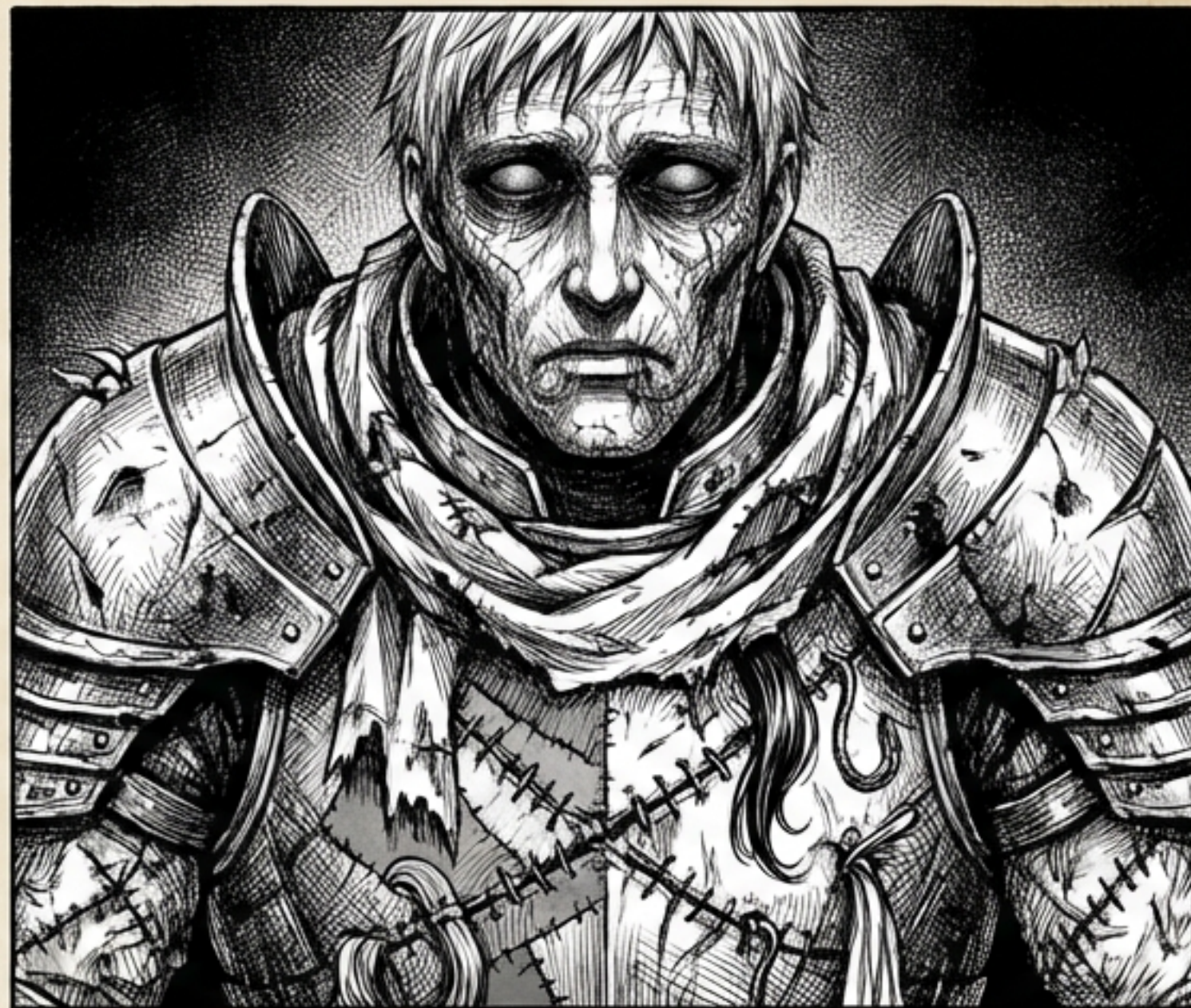
ペニー・ホワイツの究極の奥義

大魔女 ペニー・ホワイツ



- ・特例専任聖女(第13位) / 28歳(7×4)
- ・盲目の大魔女。両目の焼印は自ら望んで刻んだもの。
- ・致命的な狂気:「ジョンの介助ができる幸福」を無邪気に信じている。

禁忌の聖骸騎士 ジョン・メルトン



- ・聖骸騎士(禁断の13位) / 49歳(7×7)
- ・歴代最多の守護完遂数(6回)を誇る、自我が崩壊した男。
- ・蓄積された呪い: 凄惨な呪いと感謝を同時に受け、精神が完全に焼き切れた虚無の器。

二十四の呪詛(声)の構造



1.歴代の母たちの残響:
ペニーを育て、凄惨に
散っていった22人の
死んだ魔女たちの絶叫。

2.ペニー自身の声:
無邪気な狂気が
すべてを束ねる。

3.ジョンの肉体に刻
まれた記憶の奔流:
元奴隷の呪詛と
安らかな感謝の矛盾。

これら24の魂の地層がひとつの喉で共鳴するとき、世界を更地にする「歌」として顕現する。

第一の災厄：解き放たれ魔将

【封印1】
「雷雨が轟く清んだ空」
— 破滅の幕開け。

【封印2-3】
「子羊(よげん)の書物が説けるたび
捌きの血煙 終わします」
— 裁きの開始。

【封印4-6】
「舞台は 個我(こわれ)増せ」
— 自我と世界の崩壊の進行。

【封印7】
「無無色(なないろ)の封印を」
— 7つの封印の完全解除。

四つの生き物と四人の騎士



第5～第7の封印: 殉教者の白衣、天変地異、そして一時的な静寂。世界は恐怖で塗りつぶされ、^{てんじょう}殿上に溶けていく。

第二の災厄：呪詛(そろ)いましょう

・「英華の御使い 災禍の徳当候」

・「虚無色の汽笛を」

天空より降り注ぐ雹火とヨモギ。
舞台は地上から天上へと完全に移り、
すべての存在が形を失い始める。

・「周りを加護むわ 吹奏の鬨斗」

・「厄車は 呪詛(そろ)いました」

災厄の顕現

わたし わたし
「**雷火も血海も**」

わたし
「**ヨモギも暗黒もイナゴも**」

みんな じぶん じしん
「**鳴名 私私**」
(すべてがペニーの持つ24の声「私」として世界を蹂躞する)

「**四天使も凱歌もメシアも**」

第三の災厄：ハルマゲドン

「いま殺りましょう」
「終末の蜂飢えを」

原初ひとつに還っていく。
ハルマゲドン、またはメギドの丘の成果。
完全なる更地化の完了。

二十四の声の臨界(オーバードライブ)



未だかつて最期まで歌唱された事例のない究極の災禍。
歌姫(ペニー)と守護者(ジョン)の命すらも削り切る、破滅の臨界点。
すべてを無に帰すエネルギーが、一人の少女の細い喉に集中する。

虚無からの覚醒

「塵もあそこまで
積み上がれば
災厄になる」

—— 至高の聖蓮騎士
ジュダス



ペニーの喉が潰れ、
命が果てるその瞬間。

音もなく立ち上がる
「禁忌の騎士」。

自我なき肉体が、
歴代全魔女の絶望と
戦闘技術を結集させ、災
厄からたった一人の少女
を護るために起動する。

神々しい沈黙



「.....。」

世界を滅ぼす歌が、唐突に止まる。
それは世界を救済するためではない。
ただ一人の娘（魔女）の喉が壊れるのを防ぐためだけの、絶対的な静止。

悲劇的かつ神々しい結末



「ジョンの介助ができる幸福」

盲目の少女は、彼が自分を介助してくれているのだと信じて安堵する。

虚無の騎士は、ただ機械的に彼女の傍らに立ち続ける。

狂気と教会による搾取の果てに残された、
決して終わることのない、二人の歪で神々しい絆の証明。